

自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける No.37

「立春に咲く花 Flowers blooming first day of spring」

2021年2月11日

節分の翌日は暦の上で立春、春の域に入ったことになる。この時を万人に告げるかのように満を持して花開くのが日本原産の**満作**(まず咲く)、同時に隣国の中国原産も咲く。続いて**福寿草**が春を祝福するように地面から顔を出した。さらに遠慮がちに咲いていた**白梅**と**紅梅**が枝の先まで優雅に咲きそろっていた。そして、立春の決定的な証拠である**フキノトウ**が芽を出した。雪が残る山間地方では、雪解け水のかたわらで薄緑色の葉と芽を出すフキノトウの姿が春の到来の証しと言われているが、晴天つづきの東京の地面でも負けず嫌いの株が芽を出したのかも知れない。しかし、好物の天ぷらにして春を味わうにはあと1ヶ月待たねばならない。

季節外れと思われる花に出会った。アヤメ(菖蒲)は初夏の花なのに、立春に目に入った。実は、**寒咲菖蒲**(別名：**ウインターアイリス**)として知られた品種。**ツルニチニチソウ**も同様で、初夏には蔓(つる)が地面を覆い、鮮やかな青い花が咲く。**ボケの花**が一輪だけで枝に出現。これも春の徴しだ。咲き揃う3月半ば過ぎまで待つことにしよう。エッまさか、と思ったのが**フリージア**。開花時期はネットでも3~5月。部屋の中で育てたためか？

今号のハイライトは、**レンテンローズ**。直訳すると、「**レント(受難節)のバラ**(実はキンポウゲ科の花)」。受難節は、教会暦によりキリストの受難(十字架の死)と復活を覚えるまでの期間と定められている。今年は2/17から4/2の受難日、4/4の復活祭(イースター)に当たる。

レンテンローズは、学名ヘレボルス・オリエンタリスの英語名で、レントの時期に咲く花として親しまれており、多様な形、色の種類が知られている。なお、冬咲きで白色のクリスマスローズはその園芸種で、ヘレボルス・ニゲル(*Helleborus niger*)が正式名。特に日本で人気の花で、日本クリスマスローズ協会が結成され、今年も神代植物公園で展示会を開いている。

● バックナンバー (写真が拡大表示されます)

<http://sengawacx.com/>

